

夏のことわざクイズ その1

問題

お名前

正しいと思うものの番号に○をつけましょう。

- ① 「暑さ寒さも彼岸まで」の意味として正しいものはどれでしょう？
- ① 夏の暑さは秋の彼岸を過ぎても続く
 - ② 暑さも寒さも、彼岸を境にやわらいでいく
 - ③ 彼岸には先祖に感謝して暑さを乗り切る
-
- ② 「夏炉冬扇（かろとうせん）」の意味として正しいものはどれでしょう？
- ① 時期外れで役に立たないもののたとえ
 - ② 季節に合わせて道具を使い分けるのが大切
 - ③ 夏も冬も休まず働くこと
-
- ③ 「夏の虫、氷を笑う」の意味として正しいものはどれでしょう？
- ① 小さな者でも季節によっては強くなる
 - ② 暑さに強い者は寒さを恐れない
 - ③ 狭い経験だけで物事を決めつけること

夏のことわざクイズ その1

答え

お名前

答えと、ひとこと解説です。

- ① 「暑さ寒さも彼岸まで」の意味として正しいものはどれでしょう？

答え ② 暑さも寒さも、彼岸を境にやわらいでいく
残暑は秋分のころ、寒さは春分のころまでで、そのあとは過ぎやすくなるという意味です。

- ② 「夏炉冬扇（かろとうせん）」の意味として正しいものはどれでしょう？

答え ① 時期外れで役に立たないもののたとえ
夏の囲炉裏（いろり）や冬の扇のように、その時には役に立たないもののたとえです。

- ③ 「夏の虫、氷を笑う」の意味として正しいものはどれでしょう？

答え ③ 狭い経験だけで物事を決めつけること
夏しか生きない虫は氷を知らずに笑う、というたとえです。
見識の狭さをいましめています。

夏のことわざクイズ その2

問題

お名前

正しいと思うものの番号に○をつけましょう。

④ 「焼け石に水」の意味として正しいものはどれでしょう？

- ① 努力を続ければ、いつか報われること
- ② わずかな助けでは、ほとんど効き目がないこと
- ③ 熱くなった気持ちを冷ますこと

⑤ 夏の季語「蟬時雨（せみしぐれ）」とは、どんな様子でしょう？

- ① たくさんの蝉が鳴く声が、雨のように降りそそぐ様子
- ② 夏の夕方に降る激しいにわか雨
- ③ 蝉が鳴き始めると雨が降ると言い伝え

⑥ 「油を売る」の意味として正しいものはどれでしょう？

- ① 商売に精を出して、よく働くこと
- ② 人の話に口をはさむこと
- ③ 仕事の途中で無駄話をして、なまけること

夏のことわざクイズ その2

答え

お名前

答えと、ひとこと解説です。

- ④ 「焼け石に水」の意味として正しいものはどれでしょう？

答え ② わずかな助けでは、ほとんど効き目がないこと
焼けた石に少しの水をかけても、すぐに蒸発して冷えないことから生まれた言葉です。

- ⑤ 夏の季語「蟬時雨（せみしぐれ）」とは、どんな様子でしょう？

答え ① たくさんの蝉が鳴く声が、雨のように降りそそぐ
多くの蝉の声を、時雨（しぐれ）の降る音に見立てた言葉で、俳句によく使われます。

- ⑥ 「油を売る」の意味として正しいものはどれでしょう？

答え ③ 仕事の途中で無駄話をして、なまけること
昔の油売りが、油を量り売りする間に客と長々と世間話をしたことから生まれた言葉です。

夏のことわざクイズ その3

問題

お名前

正しいと思うものの番号に○をつけましょう。

- ⑦ 夏の季語「土用波（どようなみ）」とは、どんな波でしょう？
- ① 土用の丑の日に川があふれること
 - ② 夏の土用のころに打ち寄せる、うねりの大きな波
 - ③ 海水浴の人でにぎわう浜の様子
-
- ⑧ 権力や地位がごく短い間しか続かないことを「三日（ ）」といいます。（ ）に入る言葉はどれでしょう？
- ① 天下
 - ② 坊主
 - ③ 月
-
- ⑨ 大勢で話しても決まらないことが、力のある人の一言で決まることを「（ ）の一声」といいます。（ ）に入る言葉はどれでしょう？
- ① 蛙
 - ② 蝉
 - ③ 鶴

夏のことわざクイズ その3

答え

お名前

答えと、ひとこと解説です。

- ⑦ 夏の季語「土用波（どようなみ）」とは、どんな波でしょう？

答え ② 夏の土用のころに打ち寄せる、うねりの大きな遠くの台風などの影響で、晴れていても大きな波が来ます。海に入るときは注意が必要です。

- ⑧ 権力や地位がごく短い間しか続かないことを「三日（ ）」といいます。（ ）に入る言葉はどれでしょう？

答え ① 天下

本能寺の変のあと、明智光秀がわずか十数日で羽柴秀吉に敗れたことから生まれた言葉です。

- ⑨ 大勢で話しても決まらないことが、力のある人の一言で決まることを「（ ）の一声」といいます。（ ）に入る言葉はどれでしょう？

答え ③ 鶴

鶴の鳴き声がよく通ることから、上に立つ人の一言のたとえになりました。